



宮田鉄工株式会社



産業情報支援センターの運営組織である(株)西条産業情報支援センター(愛称:サイクス)の各種情報をお知らせします。

今月は、市内企業の所有する様々な技術を紹介する「我が社の得意技」などについてお知らせします。

我が社の得意技 ⑩
大型産業機械の組立・試運転までの一貫作業
宮田鉄工株式会社(丹原町池田)

得意技は一貫作業

「岸壁がないから海上輸送はできないけど、陸送できるものであれば、何でも作る自信があります」と宮田鉄工(株)宮田須社長は語る。

宮田鉄工は昭和29年創業。製鉄や製紙などの工場で使用される大型産業機械の製造・組立・試運転までの作業を一貫して実施できるのが、他社にはない宮田鉄工の強みだ。

宮田鉄工の転機は、昭和40年代後半のオイルショックだった。それまでは、大手企業からの指導に基づく部品加工を主としていたが、オイルショックを機に大手企業が工程の見直しを行い、これまでの加工作業に加え、組立・試運転までの一貫した作業が求められるようになった。

宮田鉄工は、この時代の要望にいち早く反応し、自ら大型産業機械の組立・試運転までを行う企業へと転換、単独で製品を納入できる企業として成長していった。

人材育成が企業活動の要

宮田社長が重視しているのが、若手を中心とした産業人材の育成である。たとえ設備が整っていても、卓越した技術を備える人材がなければ会社は動かない。若手を一流の職人に育てるには、10年ないし20年もの長い期間が必要であるが、宮田社長はチャレンジ精神溢れ、モノ作りが大好きな若手人材に期待し、毎年新入社員を採用し続けている。「私自身、どんな仕事が来ても何でもやってみよか!という気持ちでいます。うちの社員の思いも同じだと思います」宮田鉄工はモノ作りへの熱い思いで溢れている。

(レポーター・技術相談室アドバイザー 永田)



完成した大型産業機械の試運転を発注者と一緒に見守る

サイクスからの事業報告

大学生インターンシップ
実習生を受け入れました

サイクスでは各種起業家教育事業を通し、将来を担う次世代層の育成を積極的に行っています。

8月11日から22日までの期間においては、県内外の大学から計8名の大学生インターンシップ実習生を受け入れ、中高生対象の起業家教育事業「うちぬき創造塾」の計画から評価までの実践型プログラムを実習生が体験しました。実習を通し、大学生は働くことの意義を深く学ぶことができたようです。

実習を終えての感想

松山大学 越智亜裕美

(西条市三芳出身)

私はこの夏、サイクスでインターンシップ研修をさせていただきました。うちぬき創造塾の計画、実施、評価を通してチームワークの大切さと難しさを実感しました。創造塾で行った企業訪問では、西条市で働く人々から自分の仕事に対する誇りや熱い思いを感じました。2週間の研修で私は西条の良さを再確認し、自分に多くの課題を見つけることができました。この経験を私の将来に生かすべく、これからもいろいろなことに挑戦していきたいと思っています。



▲ 実習生によるうちぬき創造塾準備の様子(写真上)と参加者との記念撮影(写真下)